



(たいせつのふもと)

校訓：美風慣行・自律創造

北海道東川高等学校だより

平成27年2月27日発行

平成26年度第10号

(制作責任者 佐々木)

「祝 技能五輪国際大会出場」 「頑張る卒業生 大谷周平君」

校長 田邊孝次



本校卒業生の平谷周平君(平成24年3月卒業)が昨年の技能五輪全国大会家具部門で金賞に輝き、今年の国際大会に日本代表として出場します。平谷君は、本校卒業後(旭川共栄小学校、旭川東陽中学校出身)旭川高等技術専門学院造形デザイン科に進学し、昨年4月よりプレステージジャパン東川工場に家具職人として勤務しています。小学校4年生から野球を始め、中学校、高校と続け、本校では野球部主将、ピッチャーとして活躍しました。野球部監督の藤崎先生の薦めで、小さい頃からお父さんと一緒に日曜大工やプラモデル作りを行っていたこともあり、ものづくり系の技術を身につけ家具職人を目指して旭川高等技術専門学院に進学しました。造形デザイン科では1年次に木製品製作の基礎となる手工具の使用法や木工機械の操作方法などを学習し、後期にはスケールモデル、オリジナル家具製品を製作しました。

平成25年2年次に2級技能士を取得し、初めて出場した技能五輪全国大会で銀賞を受賞し、旭川市から若年優秀技能者表彰を受けました。平成26年11月に愛知県で開催された第52回全国大会家具部門には、2年連続で出場し見事金賞を受賞して国際大会への出場権を獲得しました。また、本校出身の同科2年生の石井厚気君(旭川東明中学校出身)も家具部門で敢闘賞を受賞しています。

全国大会は41種目に1200名が参加し、大会当日の年齢制限が23歳までの参加資格で41種目に1200名が出場しました。(家具部門は22名参加)家具部門の全国大会は、「木製キャビネット」を作業時間2日間で1日目7時間、2日目5時間以内という規定時間で作品の精度や仕上がりを競いました。課題は事前に発表されますが、大会当日に3割の内容が変更になるため、出場者の3分の1は、規定時間内に作品を完成させることができない状況でした。大谷君は、事前に計画していた時間配分通りに作業を進めることができ、完成させ高い評価を受け優勝しました。

国際技能競技大会(通称：技能五輪国際大会)は2年に一度開催され、今年の8月10日～16

日にブラジルで第43回サンパウロ国際大会が開催されます。参加資格は大会開催年に満22歳以下(一部競技を除く)の者で、過去に同一職種で参加していない者に限られています。競技職種は、45職種ですが、参加選手は各国1職種につき1名または1組、競技時間は概ね20時間で、数日にわたって実施されます。日本からは41種目25人が参加し、家具部門には25カ国から参加します。

01 家具	16 曲げ板金	31 西洋料理
02 建具	17 配管	32 造園
03 建築大工	18 電子機器組立	33 和裁
04 機械組立て	19 電気	34 日本料理
05 抜き型	20 工場電気設備	35 れんが積み
06 精密機器組立	21 石工	36 レストランサービス
07 カトリック	22 広告美術	37 車体塗装
08 機械製図	23 左官	38 冷凍技術
09 旋盤	24 貴金属装身具	39 ITPC ネットワークサポート
10 フライス盤	25 フラワー装飾	40 グラフィックデザイン
11 構造物鉄工	26 美容	41 情報技術
12 電気溶接	27 理容	42 情報ネットワーク施工
13 木型	28 洋裁	43 アニメーター
14 タイル張り	29 洋菓子製造	44 製造チームチャレンジ
15 自動車板金	30 自動車工	45 ウェブデザイン

さて、今年は終戦70年目ですが戦後の昭和22年～24年の第一次ベビーブームに生まれた方々を団塊の世代と呼ばれています。この団塊の世代が後期高齢者となる75歳に達し、日本社会に多大な影響が出ることを“2025年問題”と呼ばれています。2025年以降は、2200万人、4人に1人が75歳以上という超高齢社会が到来します。医療、歯科、介護、福祉サービスへの需要が高まり、社会保障財政のバランスが崩れるとも指摘されています。医療費など社会保障費の急増が懸念され深刻な危機に直面する問題です。さらに、日本は加工貿易国としてもものづくり立国として成長してきましたが、日本を背負う優秀な技能者をどう育てるべきか。製造業の海外移転が進む中、技術・技能の伝承も大きな課題となっています。

そのため、全国工業高等学校長協会の主催により、高校生を対象に毎年開催される高校生ものづくりコンテスト全国大会(別称：高校生技能五輪)や中央職業能力開発協会主催により、20歳以下の若者を対象に若年者ものづくり競技大会(別称：技能五輪ユース大会)などが開催されています。

大谷君は国際大会への出場は、大会時点で22歳までしか参加できなく、一生に一回しかないチ

ヤンスなので上位入賞を目指したいと抱負を語っています。全国大会で入賞（金、銀、銅、敢闘）したことにより1級技能士の実技が免除されるので実務経験を積み、職業訓練指導員や1級技能士を取得し家具職人として独立する夢もある。東川高校の後輩には、在学中に自分のやりたいこと、好きなことを見つけられるように目的意識を思っ
て過ごすことが大切と語っていました。ものづくりに関わる職業選択ができ、今後の夢実現に向けて一生懸命生活している姿は大変輝いていました。今後は、仕事と課題練習の両立に苦勞することと思いますが国際大会での入賞を祈念します。

学校評価委員会より

本年度最後となる第3回学校評議員会議を17日（火）の18：30～校長室にて行いました。3回目はPTA会長・副会長も出席していただき、学校評価委員会としての目的も兼ね、本年度の教育活動について意見交換をしました。



学校からは、1月末に実施した「学校生活に関するアンケート（全校生徒より）」「学校教育に関するアンケート（保護

者より）」「学校評価アンケート（教職員分）」の集約結果と年度末反省会議における意見や内容等について説明をしました。

アンケート集約を概観してみると、生徒指導、福祉関係等の資格取得の指導、日常の清掃活動や美化活動等については、生徒も保護者も比較的高くなっており、意欲を喚起する教科指導、生徒の実態に即した教材の用意や一人ひとりの理解を大切にする指導等の項目でやや低い状況にありまし

た。教職員の自己評価においても意欲を喚起する教科指導、観点別評価など評価の創意工夫の項目ではあまり高い評価ではありませんでした。公開授業週間や授業アンケート等の取組はしていますが、工夫改善の方策が必要であることを示しています。アンケート結果及び学校評価委員会で作された意見を次年度の学校づくりに生かすよう努めて参ります。

第33回カルタ大会

3年生にとって最後の学校行事となる第33回カルタ大会が1月29日（木）に行われました。

クラス対抗戦、チームにより個人戦がそれぞれ行われ、団体（2B）、個人戦（2Aチーム）ともに2年生が優勝する結果となりました。

今年で33回を迎えた伝統あるカルタ大会ですが、会場当日には書道の授業において作成した下の句カルタの作品が飾られ、大会の雰囲気盛り上げました。また、カルタの詠み手として3年岩倉未来君、2年佐藤詩音さんの2名が活躍し、大会成功に貢献してくれました。



<3月～4月上旬の主な行事>

- 1日（日）卒業証書授与式、「清流」発行
- 3日（火）学力検査準備
検査場設営・公開
- 4日（水）入学者選抜学力検査
生徒休業日
- 5日（木）入学者選抜面接、生徒休業日
- 6日（金）入学者選抜採点、生徒休業日
- 10日（火）職業適性検査（2年）
- 11日（水）合否判定会議、生徒休業日
- 12日（木）2年 進路講話
- 13日（金）進路先輩講話（1年）
- 14日（土）ソフトテニス全道大会（釧路）
バドミントンFD杯

- 17日（火）入学者選抜合格発表
（10：00）、性の授業（1年）
- 19日（木）性の授業（2年）
- 20日（金）税の授業（1年）
PTA第4回役員会（18：30）
- 24日（火）終業式・離任式、防災点検
- 25日（水）年度末休業
- 27日（木）介護職員初任者研修講座
（1～2年生希望者）
PTA同窓会合同送別会
（18：30～）
- 4月1日（水）新入生予備登校
- 8日（水）着任式・始業式
入学式（13：30～）